

マラリアからアフリカの子どもを救う新たなパートナーシップ

ユニセフ・住友化学工業・日本政府・タンザニア政府が、マラリア問題に取り組む「民間参加」の国際的パートナーシップを紹介します

2003年9月24日 東京発 - マラリアは毎年世界で100万人以上、特にアフリカの5歳以下の多くの子どもの命を奪っています。その予防に絶大な効果が期待されているのが、住友化学工業(株)が開発したオリセッド®蚊帳。今月、タンザニアのプラスチック加工会社 AtoZ が、アフリカでの現地生産を始めました。

「オリセッド®の技術は、マラリアに立ち向かう私たちの闘いに新たな転機を与えてくれました。もしこのような蚊帳が、必要としている全ての人々に届けられたなら、毎日3000人もの子どもの命を奪うこの病気の被害をこの世の中から一掃できる日も、そう遠くはない将来にやってくるでしょう。」(ユニセフ事務局長・キャロル・ベラミー)

蚊帳に防虫効果を持たせるためには、最低年に一度殺虫剤に蚊帳を浸す必要があります。「オリセッド®」蚊帳は、防虫剤が繊維の中に織り込まれており、5年以上マラリア防除効果が持続するため、現時点で世界に唯一 WHO に認定された長期残効型の防虫剤含浸蚊帳(Long Lasting Insecticide-treated Net - LLIN)です。

「マラリア問題に取り組む国際社会のこの取り組みに、私どもが民間セクターとしてリーダーシップを取らせていただけたことは大変光栄なことです。オリセッド®技術のタンザニアへの技術移転が、タンザニアの人々の健康を守る一助となり、また同国の経済発展に資するとともに、持続可能なアフリカの開発を目指す民間セクターを含めた国際的な取り組みの先例となってくれることを期待しています。」(住友化学工業会長・香西昭夫)

防虫処理を施した蚊帳の使用で、マラリアの伝染を60%、マラリアによる子どもの死亡を50%減らすことができます。しかし、高価であったり、あまり市場に出回っていないなどの理由から、アフリカでは蚊帳があまり普及していません。最近の調査では、防虫処理を施した蚊帳の下で寝ている5歳以下の子どもは全体の5%以下。防虫処理を施されていない普通の蚊帳で寝ている子どもも15%以下に過ぎないことが分かりました。

「この新技術による LLIN が、普通の蚊帳さえ買えないような貧困にあえぐ人々やコミュニティーに普及できるかどうか鍵です。」(ユニセフ事務局長・キャロル・ベラミー)

住友化学は、LLINのコストを下げるため、オリセッド®技術を AtoZ に無償で供与しました。また、アフリカ人の技術者の育成、現地での品質管理体制の確立も計画されています。

9月28日(日)、ユニセフと住友化学は、9月29日から東京で開催される「第3回アフリカ開発会議」(TICAD)を記念し、アフリカのマラリア問題を提起し、このオリセッド®蚊帳を通じた日本政府・国際機関・民間セクターのパートナーシップを紹介する式典を開催します。この式典には、タンザニア共和国大統領・ベンジャミン・W・ムカパ閣下をお迎えし、住友化学工業(株)会長・香西昭夫、ユニセフ事務局長・キャロル・ベラミー、日本政府・WHO・AtoZ 関係者などが出席します。

第3回アフリカ開発会議開催記念:

アフリカのマラリア問題に立ち向かう日本とユニセフのパートナーシップ - オリセッド®に見るプライベートセクター参加のアフリカ開発支援

とき: 9月28日(日) 15:00 - 16:00

ところ: 日本ユニセフ協会(ユニセフハウス) 東京都港区高輪 4-6-12 (駐車場の用意はございません)

問い合わせ先: ユニセフ駐日事務所 中井裕真 (電話 03-5467-4431)

住友化学工業(株) I R・広報部 (電話 03-5543-5102)